令和7年度　青梅市立第三中学校　第二学年　社会（歴史）年間指導計画・評価計画　４月～６月、１月～３月　５９時間計画
使用教科書・・・『中学社会 歴史 未来をひらく』　教育出版　担当

章	節・学習項目	学習のねらい	知識	技能	社会的な思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
第３章　中世の日本と世界	●節の評価規準					
	第２節 ゆれ動く武家政治と社会 ９	○南北朝の争乱と室町幕府の成立，応仁の乱後の社会的な変動と戦国の動乱について，東アジア世界との密接な関わりとともに理解する。 ○農業などの諸産業が発達し，畿内を中心とした都市や農村に自治的なしくみが成立したことを理解するとともに，室町文化には禅宗の影響や現在との結び付きがみられることに気づく。	農業をはじめとする諸産業が発達し，都市や農村に自治的なしくみが生まれたことや，武士や民衆の活力を背景にした新しい文化が生まれたという社会の変化を理解し，その知識を身に付けている。	鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開，経済の発達と社会の変化，室町文化に関する様々な資料を活用し，読み取ったり図表にまとめたりしている。	自治的なしくみの発生，武士や民衆の活力を背景にした新しい文化の誕生といった社会の変化を，農業をはじめとする諸産業の発達，政治の動きなどから多面的・多角的に考察し，その家庭や結果を適切に表現している。	鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開，経済の発達と社会の変化，室町文化に対する関心を高め，意欲的に追究し，中世の特色をとらえようとするとともに，中世の文化遺産を尊重しようとする。
	●各単元の評価規準					
	⑥海から押し寄せる元軍 ２	○元寇の経過について，高麗や南宋などの東アジア情勢と関わらせて理解する。 ○元寇が幕府政治に及ぼした影響や，鎌倉幕府が滅亡した要因について，幕府と御家人の関係や悪党の出現などとの関わりから考える。	元寇の後，御家人の窮乏やそれに対する徳政令など幕府政治に及ぼした影響と，鎌倉幕府が滅亡した要因を幕府と御家人の関係や悪党の出現などと関わらせて理解している。	元軍が敗退した原因を，元軍の構成や御家人の奮戦など多角的に考察し，元寇が朝鮮や鎌倉幕府・御家人に与えた影響を推測している。	「蒙古襲来絵詞」の絵を観察して，日本の武士が元軍に苦戦した理由を，人数や武器等の視点から読み取っている。	「蒙古襲来絵詞」を見て元寇への関心を高め，元寇が幕府に与えた影響や幕府滅亡の要因を，御家人の衰退と悪党の出現に関連づけて意欲的に調べようとしている。
	⑦このごろ都にはやるもの １	○建武の新政が失敗した理由について考えるとともに，南北朝の争乱が続くなかで，地方の守護が力を強めていったことを理解する。 ○室町幕府のしくみをとらえ，幕府は有力な守護大名によって支えられていたことに気づく。	室町幕府が義満の時代に権力を集中させ，その特徴として将軍と守護大名の連合政権があり，特に守護の力が大きかったことを理解している。	建武の新政が失敗し南北朝の内乱になった経緯を，後醍醐天皇の政治方針と武士の要求・利害の違いなどから指摘している。	「二条河原の落書」の史料から社会の様子を読み取るとともに，「主な守護大名とその領地」の地図から多くの守護大名によって幕府が支えられていたことを読み取っている。	建武の新政から南北朝の内乱に至る経過や，内乱がもたらした武家社会の変化を，守護大名の台頭に注目しながら意欲的に調べようとしている。
第３章　中世の日本と世界	⑧行き交う海賊船と貿易船 １	○中国や朝鮮半島で倭寇の活動が活発化するなか，明や朝鮮が成立し，日本と国交を結んで貿易を行ったことを理解する。 ○明との貿易で勘合を用いた理由や，足利義満が「日本国王」を名のった理由について考える。	日本と明・朝鮮が国交を結んで貿易を行うなかで，日明貿易が「勘合」を用いて行われた理由を「倭寇」との関わりで理解している。	「蒙古襲来絵詞」の絵を観察して，日本の武士が元軍に苦戦した理由を，人数や武器等の視点から読み取っている。	元軍が敗退した原因を，元軍の構成や御家人の奮戦など多角的に考察し，元寇が朝鮮や鎌倉幕府・御家人に与えた影響を推測している。	足利義満が「日本国王」と名のった理由に関心を高め，日明貿易が「勘合」を用いて行われた理由を「倭寇」との関わりで意欲的に調べようとしている。
	⑨北と南で開かれた交易 １	○琉球では，琉球王国が東アジアと東南アジアの国々を結ぶ中継貿易で栄え，独自の文化を発展させたことを理解する。 ○蝦夷地では，先住民として暮らすアイヌ民族がまとまりを強め，交易を行うなかで和人との争いも起こったことを理解する。	琉球では琉球王国が中継貿易で栄え，蝦夷地でもアイヌ民族がまとまりを強めて和人と交易を行う暮らしをしていたことを理解している。	「二条河原の落書」の史料から社会の様子を読み取るとともに，「主な守護大名とその領地」の地図から多くの守護大名によって幕府が支えられていたことを読み取っている。	建武の新政が失敗し南北朝の内乱になった経緯を，後醍醐天皇の政治方針と武士の要求・利害の違いなどから指摘している。	琉球では琉球王国が中継貿易で栄え，蝦夷地でもアイヌ民族がまとまりを強めて和人と交易を行う暮らしをしていたことを理解し，両地域の独自の文化を意欲的に調べようとしている。
	⑩団結する村，にぎわう町 １	○農業生産の向上を背景に，生活の取り決めや他村との交渉など，惣による自治を行う村もみられるようになったことに気づく。 ○産業や流通が発達するなかで，各地に新たな町が生まれ，町衆による自治を行う都市も現れたことを理解する。	産業や流通が発達するなかで，各地に新たな町が生まれ，町衆による自治を行う都市も現れたことを理解している。	日本と明・朝鮮との関係を，貿易品やもたらされた文化などにふれながら図にまとめている。	足利義満が「日本国王」と名のった理由や，日明貿易が「勘合」を用いて行われた理由を「倭寇」との関わりで考察している。	惣や町衆など民衆の自治組織が発達し力が伸びてきた背景には産業の発達があることに関心を高め，農業や商業・手工業などの産業の様子を意欲的に発表しようとしている。

	⑪下剋上の世へ 2	○徳政や自治を求める一揆が繰り返し起こった背景には，力を強める民衆の団結があったことに気づく。 ○応仁の乱ののち，下剋上の風潮が広がるなかで，各地に戦国大名が割拠し，実力で領国を支配したことを理解する。	応仁の乱以降，下剋上の風潮が強まるなかで起きた各地の一揆の要求と特色を知り，その背景には民衆の自治の進展があったことを理解している。また，戦国大名が実力で国内を支配していったことを理解している。	アイヌ民族や琉球王国はどんな地域と交易していたかを，「15世紀ごろの琉球王国とアイヌ民族の交易ルート」を活用して調べている。	独自の文化が発達した背景について，琉球王国が東南アジアや東アジアとの交流を，アイヌ民族が大陸との交易など独自の交易ルートをもっていたことと関連づけて推測している。	この時代に土一揆が多発したことに対する関心を高め，一揆を起こした民衆の要求や一揆の結果を意欲的に追究している。
	⑫今につながる文化の芽生え 1	○室町文化の特色について，武家と公家の交流，禅宗の影響，民衆への広まりなど，政治的・社会的な背景との関わりから理解する。 ○室町文化のなかには，能や狂言，書院造，茶の湯など，今日まで引き継がれているものが多いことに気づく。	室町文化の特色について，武家と公家の交流，禅宗の影響，民衆への広まりなど，政治的・社会的な背景との関わりから理解している。	農業や商業・手工業などの産業の様子を「月次風俗図屏風」の絵などの資料を活用して調べている。	農業や商業・手工業の発達が，惣・町衆など民衆の自治組織の発達や都市の発展に結びついていくことを考察している。	日本の伝統文化に関心を高め，室町時代に生まれた文化で現代に受け継がれているものを意欲的に見つけ出そうとしている。
第４章　近世の日本と世界	**●節の評価規準**					
	第１節 結びつく世界との出会い 4	○14～16世紀のヨーロッパでは，ルネサンスや宗教改革，アジアへの新航路の開拓などの動きがおこり，ヨーロッパ諸国が貿易や布教などを目的に世界各地へ進出していったことを理解する。 ○ヨーロッパ人が日本に来航した背景や目的を理解し，それが日本の社会に及ぼした影響について考える。	ルネサンスによってもたらされた新しい文化や学問・科学・思想などがあり，それが宗教改革や新航路開拓に結びついて，ヨーロッパが近世社会として発達していくことを理解するとともに，ヨーロッパ人の来航による日本への影響に関する知識を身に付けている。	ヨーロッパ社会におけるルネサンスや宗教改革，新航路開拓等，14～16世紀に起こった歴史的事象やヨーロッパ人の来航による日本への影響に関する様々な資料を活用し，読み取ったり図表にまとめたりしている。	ヨーロッパ社会におけるルネサンスや宗教改革，新航路開拓等，14～16世紀に起こった歴史的事象の特色とヨーロッパ人の来航による日本への影響などについて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	ヨーロッパ社会におけるルネサンスや宗教改革，新航路開拓等，14～16世紀に起こった歴史的事象に対する関心を高めるとともに，ヨーロッパ人の来航による日本の社会への影響を意欲的に調べようとしている。
	●各単元の評価規準					
	①中世からの脱却 1	○中世のヨーロッパでルネサンスや宗教改革の動きが起こった背景と理由について，都市の繁栄やカトリック教会の教義などと関わらせて考える。 ○西アジアや南アジアでは，オスマン帝国やムガル帝国などのイスラム世界が広がり，アジアとヨーロッパをつなぐ貿易で繁栄していたことを理解する。	ヨーロッパでルネサンスや宗教改革の動きが起こった背景と理由を，都市の繁栄やカトリック教会の教義などと関わらせて理解するとともに，同時期に西アジアや南アジアでは，イスラム世界が広がり，アジアとヨーロッパをつなぐ貿易で繁栄していたことを理解している。	ルネサンスの動きや人々が求めた表現・考え方について，「中世の三美神」と「春」の絵を見比べながら調べている。	中世のヨーロッパでルネサンスや宗教改革の動きが起こった背景と理由を，都市の繁栄やカトリック教会の教義などと関わらせて考察している。	「中世の三美神」と「春」を比べて観察し，その違いを見つけようとするとともに，ルネサンスや宗教改革が起こった背景を都市の繁栄やカトリックの教義と関わらせながら意欲的に調べようとしている。
	②太陽の沈まない国 1	○アジアとの貿易やキリスト教の布教を目的として，スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めたことを理解する。 ○ヨーロッパ諸国が，アジアやアフリカ，中南アメリカに進出して植民地を築き，その資源や貿易によって勢力を強めていったことに気づく。	スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めた理由を，貿易や布教と関わらせて理解している。	ヨーロッパ諸国が進出していった地域を「16世紀ごろの世界」の地図から読み取り，スペインが「太陽の沈まない国」といわれたわけを調べている。	スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めた理由を，アジアとの貿易やキリスト教の布教と関わらせて考察している。	スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めた理由に関心を高め，アジアとの貿易やキリスト教の布教が目的であったことを意欲的に調べようとしている。
	③戦国の世に現れた南蛮人 2	○鉄砲とキリスト教の伝来，南蛮貿易について，ヨーロッパ諸国の世界進出と関わらせて理解する。 ○鉄砲やキリスト教が戦国大名を中心に広まった理由や，社会に及ぼした影響について考える。	鉄砲とキリスト教の伝来が戦国時代の日本社会に与えた影響を理解している。	「南蛮人渡来図屏風」の絵に描かれたものや様子を読み取り，南蛮貿易やキリスト教の広がりの理解に活用している。	鉄砲やキリスト教に戦国大名が注目した理由や，その広がりが社会に及ぼした影響等について，時代背景をふまえながら考察している。	スペインやポルトガルがもたらしたものや文化に関心を高め，ヨーロッパ人の来航が日本に与えた影響を意欲的に追究しようとしている。

第４章　近世の日本と世界	●節の評価規準					
	第２節 天下統一への歩み ５	○織田・豊臣による全国の統一事業や，朝鮮への出兵などの対外関係についてとらえ，近世社会の基礎がつくられていったことを理解する。 ○海外から南蛮文化などが取り入れられる一方で，武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪壮・華麗な文化が生み出されたことに気づく。	織田・豊臣の時期の政治や社会の大きな変化と対外関係のあらまし，武将や豪商などの生活文化の展開を理解し，その知識を身に付けている。	戦国の動乱，ヨーロッパ人の来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係のあらましなどから，中世から近世への政治や社会の大きな変化について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	戦国の動乱，ヨーロッパ人の来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係のあらましなどに関する資料を活用し，読み取ったり図表にまとめたりしている。	戦国の動乱，ヨーロッパ人の来航の背景とその影響，織田・豊臣の時期の政治や社会の大きな変化と対外関係のあらまし，武将や豪商などの生活文化の展開に対する関心を高め，意欲的に追究しようとしている。
	●各単元の評価規準					
	④天下統一を目ざして ３	○織田信長や豊臣秀吉は，戦国大名や寺院勢力などと戦い，武力による天下統一を進めていったことを理解する。 ○楽市・楽座や関所の廃止，キリスト教の保護など，信長が行った政策のねらいについて考える。	信長と秀吉による全国統一の過程や，統一事業に向けた信長の政策のあらましを理解している。	「長篠の戦い」の絵を活用し，信長の戦い方の特色を調べている。	楽市・楽座や関所の廃止，キリスト教の保護など，信長が行った政策のねらいについて，旧来の寺院・公家勢力の弱体化と関連づけながら考察している。	信長と秀吉の人物像に関心を高め，逸話などを発表しながら，信長の政策の内容やねらいを意欲的に調べようとしている。
	⑤近世社会への幕開け １	○豊臣秀吉が命じた太閤検地や刀狩，身分統制によって兵農分離が進み，近世社会の基礎がつくられていったことを理解する。 ○秀吉がキリスト教の布教を禁止した理由や，朝鮮への出兵が内外にもたらした影響に気づく。	豊臣秀吉の太閤検地や刀狩，身分統制等の政策のあらましと，それにより兵農分離が進み，近世社会の基礎がつくられていったことを理解している。	「刀狩令」や「検地」の資料を読み取り，秀吉の兵農分離政策の理由やねらいの説明に活用している。	兵農分離の政策によって社会の枠組みがどのように変化したかを，中世の社会と比較して考察し，説明している。	秀吉に対する日本と朝鮮での評価の違いに関心を高め，朝鮮侵略や他の政策の内容やねらいを意欲的に追究しようとしている。
	⑥城と茶の湯 １	○ヨーロッパや東アジアから新たな文化がもたらされ，生活にも広く取り入れられていったことに気づく。 ○桃山文化の特色や民衆の文化の広がりについて，戦国大名や豪商などの担い手，戦乱の世相との関わりから理解する。	ヨーロッパ人の来航によってもたらされた南蛮文化と，来航の影響によって生まれた桃山文化の特色や内容について理解している。	「唐獅子図屏風」や「姫路城」の写真を観察して，桃山文化の特色を読み取っている。	桃山文化の特色について，生活に根ざした文化の広がりや武将・豪商の経済力などの時代背景から考察している。	「唐獅子図屏風」や「姫路城」の写真を観察して桃山文化に関心を高め，それが生まれた背景を意欲的に調べようとしている。
	●節の評価規準					
	第３節 幕藩体制の確立と鎖国 ６	○江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策と鎖国下の対外関係，身分制度の確立と農村の様子をとらえ，幕府の政治の特色について考えるとともに，幕府と藩による支配が確立したことを理解する。	江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，身分制度の確立および農村の様子を理解し，その知識を身に付けている。	江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，身分制度の確立と幕藩体制など，幕府の政策や農村の様子などに関する資料を活用し，読み取ったり図表にまとめたりしている。	江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，身分制度の確立と幕藩体制など，幕府の政策の特色や農村の様子などについて，為政者の立場からだけでなく多面的・多角的に考察・判断し，その過程や結果を適切に表現している。	江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，身分制度の確立と幕藩体制，農村の様子などに対する関心を高め，意欲的に追究しようとしている。
	●各単元の評価規準					
	⑦泰平の世の土台づくり ２	○江戸幕府の成立の経緯とともに，大名の配置や領地替え，武家諸法度などの政策によって，幕府が全国の大名を統制したことを理解する。 ○幕府が，軍事的・経済的に優位に立っていたことや，幕藩体制のしくみにより藩の政治の責任を大名に負わせたことに気づく。	江戸幕府成立の経緯とともに，大名の配置や領地替え，武家諸法度などの政策の内容やねらいを理解している。	「主な大名の配置」の地図や「武家諸法度」の史料を活用し，幕府がどのように大名統制をしていったかを読み取っている。	大名の配置替え，武家諸法度，参勤交代などの政策のねらいについて，幕府の立場から考察し，説明している。	家康の人物像に関心を高め，徳川幕府が長く政権を維持した理由を意欲的に追究しようとしている。

⑧東南アジアに広がる日本町 1	○江戸時代の初めには，東南アジアの国々との朱印船貿易が盛んになり，各地に日本町ができたことを理解する。 ○幕府が外交政策を転換し，「鎖国」に至る過程をとらえるとともに，その理由について，キリシタンの増加，貿易や海外情報の独占との関わりから考える。	朱印船の活躍の様子を知るとともに，島原・天草一揆が幕府の外交政策に与えた影響を理解している。	貿易の奨励から鎖国へ政策を転換した経緯を，「『鎖国』への歩み」の年表に整理しながら読み取っている。	朱印船貿易から鎖国に至る主なできごとを挙げて，外交政策の変化と鎖国の理由について，幕府の貿易と海外情報の独占を関わらせて考察している。	「絵踏」の様子に関心を高め，幕府が貿易の奨励から一転して鎖国に政策転換した理由を意欲的に調べようとしている。
⑨開かれた窓 2	○鎖国下においても，長崎・対馬・琉球・松前の窓口を通じて，オランダや中国，朝鮮，蝦夷地などと，交易や交流が行われていたことに気づく。 ○琉球王国や蝦夷地のアイヌの人たちに対し，薩摩藩や松前藩が支配を強めていく過程を理解する。	幕府の外交政策が，中国・オランダ・朝鮮・琉球・蝦夷地に対してどのように行われたのか理解している。	「長崎の港と出島」の絵を観察して，中国やオランダとの貿易の様子を読み取るとともに，出島の特徴をまとめている。	鎖国下の日本で，多くの学者が長崎を訪れるようになった理由を，交易の窓口や相手国などの視点から推測している。	交易や文化交流に果たした朝鮮・琉球の役割や，アイヌの人たちの暮らしに対する関心を高め，現在に残る文化を大切にしようとしている。
⑩身分ごとに異なる暮らし 1	○幕府や藩が人々を支配するうえで，身分制度が果たした役割や，えた・ひにんの身分とされた人々が差別を受けた理由について考える。 ○村や町に住む人々の暮らしの様子について，幕府や藩による民衆支配との関わりから理解する。	村や町に住む人々の暮らしの様子や，特に農民に課せられていた年貢などの負担について，幕府や藩による民衆支配との関わりから理解している。	グラフや絵から，江戸時代の身分とそれぞれの職分や暮らしの様子について調べ，表にまとめている。	身分制度が果たした役割を為政者の立場で考察するとともに，えた・ひにんの身分とされた人々が差別を受けた理由について推測している。	江戸時代に確立した身分制度による差別が，現在も残っていることに関心を高め，差別を許さないという態度をとろうとしている。
●節の評価規準					
第４節 経済の成長と幕政の改革 **7**	○産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりについてとらえ，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 ○貨幣経済の広まりや百姓一揆などの農村の変化，江戸幕府の政治改革について理解するとともに，新しい学問・思想の動きに気づく。	繰り返される政治改革の内容や，町人文化が都市を中心に形成されたこと，各地方の生活文化が生まれたことを理解し，その知識を身に付けている。	経済の発達と都市の繁栄，町人文化や各地方の生活文化，政治の行き詰まりと繰り返される政治改革，新しい学問や思想に関する資料を活用し，読み取ったり図表にまとめたりしている。	経済の発達と都市の繁栄，町人文化や各地方の生活文化，政治の行き詰まりと繰り返される政治改革，新しい学問や思想について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	経済の発達と都市の繁栄，町人文化や各地方の生活文化，政治の行き詰まりと繰り返される政治改革，新しい学問や思想などに対する関心を高め，意欲的に追究しようとしている。
●各単元の評価規準					
⑪将軍のおひざもと，天下の台所 1	○新田開発や農林水産業が盛んになった背景には，生活の向上を願う人々の工夫や努力があったことに気づく。 ○商品の流通の拡大や，街道・航路などの交通の発達にともなって，江戸・大阪・京都を中心に各地で都市がにぎわい，有力な商人も現れたことを理解する。	三都をはじめとする都市の繁栄を，農業・林業・水産業などの生産増大や，交通・商業の発達と関わらせて理解している。	「江戸時代の農具の進歩」の絵から，農具の役割や作業効率について調べるとともに，大阪や江戸の都市の賑わいを表した絵を活用して，経済や都市の繁栄について調べている。	江戸時代に都市が発達した理由を，幕府や藩の財政政策や農業技術の進歩，物資の流通などの視点から考察している。	新田開発や農業技術の発達に関心を高め，江戸時代に由来する地名・史跡を地図で意欲的に調べようとしている。
⑫花開く町人文化 1	○都市の発展を背景に，町人を担い手とする元禄文化が，上方を中心に生まれたことを理解する。 ○民衆の衣食住の変化や年中行事などの暮らしぶりをとらえ，現代の暮らしにもつながる部分が多いことに気づく。	都市の発展を背景に，町人を担い手とする元禄文化が上方を中心に生まれたことや，その内容について理解している。	文学作品や美術品を鑑賞して，元禄文化の担い手や特色を読み取っている。	近世の生活文化のなかには，歌舞伎・年中行事など，現代に受け継がれている部分が多いことを指摘している。	浮世絵や装飾画，庶民が歌舞伎を楽しむ様子の絵などを観察しながら元禄文化に関心を高め，その特色について意欲的に調べようとしている。
⑬連判状にまとまる人々 1	○徳川綱吉は儒学を重んじる政治を進めたものの，幕府の財政は悪化し，新井白石が財政の立て直しに取り組んだことを理解する。 ○人々が百姓一揆や打ちこわしを起こすようになった背景・原因には，貨幣経済の広まりによる貧富の差の拡大や，年貢・税の負担増などがあったことに気づく。	綱吉の政治のあらましや農民たちが百姓一揆を起こした原因，幕藩体制に与えた影響について理解している。	百姓一揆や打ちこわしが増加した背景と原因について，「百姓一揆・打ちこわしの発生件数」のグラフを活用して調べている。	貨幣経済の広まりや天災・凶作などによって，農家の間では貧富の差が拡大するなど，農村の変化について，幕府の統制策を含めて多角的に考察している。	「傘連判状」の署名の工夫に関心を高め，百姓一揆や打ちこわしが増加していく原因を，貨幣経済の広まりや天災・凶作と関わらせながら意欲的に調べようとしている。

	⑭繰り返される政治改革 3	○幕府による享保の改革，田沼の政治，寛政の改革を比べ，それぞれの改革の目的や手段，結果について理解する。 ○幕府政治の改革が成功せず，繰り返し行われた理由について，幕府の財政難や人々の生活苦，社会の変化などとの関わりから考える。	幕府による享保の改革，田沼の政治，寛政の改革を比べ，それぞれの改革の目的や手段，結果について理解している。	改革に対する民衆の反応を，「寛政の改革を風刺する狂歌」から読み取っている。	幕府による一連の政治改革を，推進した人物・政策とねらい・民衆の動き・社会的な事件・改革の結果などの視点から整理して考察している。	政治改革に対する民衆の様々な思いに関心を高め，それらの改革に対して起こった民衆の反応や事件を民衆の立場になって考えようとしている。
	⑮「読み・書き・そろばん」の習い 1	○幕府や藩が朱子学を奨励した理由や，新たに生まれた国学・蘭学などの学問がもたらした影響について考える。 ○化政文化が江戸の町人を中心に栄えた一方で，各地に寺子屋や藩校が開かれ，地方にも文化が広がったことを理解する。	化政期に生まれた新しい学問や思想・文化などの特色・内容・時代背景について理解している。	文学作品や「葛飾北斎の風景画」を鑑賞し，元禄文化と比較しながら化政文化の特色を読み取っている。	化政文化の特色とともに，国学や蘭学の発達が社会に与えた影響を考察している。	『解体新書』をはじめ，この時期の学問，文学，美術などの作品に関心を高め，化政文化の特色について意欲的に調べようとしている。
第５章　近代の幕開け	**●節の評価規準**					
	第１節 近代世界の確立とアジア 6	○欧米諸国が，市民革命や産業革命により近代社会を成立させ，新たな市場や原料の供給地を求めてアジアへ進出したことを理解する。	欧米諸国が，市民革命や産業革命により近代社会を成立させ，新たな市場や原料の供給地を求めてアジアに進出したことを理解し，その知識を身に付けている。	議会政治の始まりや産業革命によって資本主義社会が成立したこと，それにともなうアジアへの影響について，様々な資料を活用し，読み取ったり図表にまとめたりしている。	市民革命が起こった背景や産業革命がもたらした影響について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	市民革命や産業革命を経た欧米諸国のアジアへの進出について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。
	●各単元の評価規準					
	①王は君臨すれども統治せず 1	○16～17世紀のイギリスやフランスでは，絶対王政が成立し，国王による専制政治が行われたことを理解する。 ○イギリスで革命があい次いで起こり，立憲君主制による議会政治が成立したことを理解するとともに，フランスで啓蒙思想の広まりがもたらした影響に気づく。	イギリスやフランスでは絶対王政が成立し，イギリスでは市民階級が絶対王政を打ち倒し，民主主義政治の発展に道を開いた市民革命が起こったことを理解している。	イギリスで議会政治が始まるまでの過程や，革命を支えた啓蒙思想家について，年表や資料を活用して調べている。	イギリスの二つの革命の前後で，国王と議会の関係がどのように変わったか説明している。	イギリスやフランスの絶対王政に関心を高め，なぜイギリスで革命があい次いで起こったのか意欲的に調べようとしている。
	②代表なくして課税なし 1	○アメリカの独立戦争の経緯や独立宣言から，植民地の人々がイギリス本国に対して求めた権利について考える。 ○フランス革命がそれまでの身分社会を否定し，自由で平等な社会への道を開いたことを理解し，国民議会による人権宣言の意義に気づく。	独立戦争を通じて，アメリカが市民革命を成し遂げたことや，フランス革命の歴史的意義について理解している。	フランス革命について，革命前の身分社会と個人の権利や市民社会の政治の違いからまとめている。また，独立宣言と人権宣言を読み比べて，共通する言葉を抜き出している。	13植民地の人々がイギリス本国に対して求めた権利について，アメリカの独立戦争の経緯や独立宣言から多角的に考察している。	アメリカの独立戦争や独立宣言，フランス革命や人権宣言の特徴に関心を高め，意欲的に調べようとしている。
	③「世界の工場」の光とかげ 1	○イギリスで機械と蒸気機関を利用した工業化が進み，世界で最初に産業革命が起こったことや，その広がりのなかで資本主義社会が成立したことを理解する。 ○社会主義の実現や参政権の拡大を求める動きの背景には，資本主義社会のもとでの労働問題や社会問題の発生があったことに気づく。	イギリスは「世界の工場」とよばれるほどの資本主義国に成長し，世界各国も19世紀の末までに産業革命を成し遂げたことを理解している。	産業革命前後の工業の変化や，資本主義と社会主義の経済のしくみの違いについて図表にまとめている。	産業革命が国民生活に与えた影響について，工業化による大量生産や交通網の発達などの光の面と，その一方で労働問題や社会問題などのかげの面があったことを指摘している。	産業革命に関心を高め，社会や人々に与えた影響について意欲的に調べようとしている。

	④強大な国家を目ざして 1	○アメリカが西部の開拓や南北戦争を経て発展していった過程を理解するとともに，領土の拡大によって太平洋の先への関心も高まっていったことに気づく。 ○社会の改革や国家の統一による近代化によって，欧米諸国が勢力を強め，列強とよばれるようになったことを理解する。	アメリカ合衆国では，南北戦争を経て資本主義が急速に発展したこと，ヨーロッパで民主主義が大きく前進した19世紀当時，後進国であったロシア・イタリア・ドイツにおいても近代化が進んだことを理解している。	独立後のアメリカの発展や欧米列強のそれぞれの成立の過程について，資料をもとに図表にまとめている。	欧米列強の成立の要因について，欧米の幾つかの国を例に，経済力や軍事力などから指摘している。	欧米諸国がどのようにして国家の勢力を強めていったのか，その政策に対する関心を高め，意欲的に調べようとしている。
	⑤国をゆるがす綿とアヘン 2	○産業革命の進展にともない，イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国が，工業原料や新たな市場を求めてアジアに進出し，植民地化を進めたことを理解する。 ○インドの大反乱や，中国で起こったアヘン戦争・太平天国の運動の背景や要因について考えるとともに，こうした抵抗が独立運動や革命の動きにつながっていったことに気づく。	産業革命が進展するなかで，新たな市場や原料，植民地を求めてアジアに進出したイギリスなどのヨーロッパ諸国の動きについて理解している。	地図をもとに，ヨーロッパ諸国が植民地を求めて，どの地域に進出していったのか調べている。また，イギリス・インド・清の貿易の関係について図にまとめている。	インドの大反乱や，中国で起こったアヘン戦争・太平天国の運動の背景や要因について説明している。	ヨーロッパ諸国がアジアの国々を次々と植民地化していった理由や，アジアの国々の抵抗について関心を高め，意欲的に調べようとしている。
第５章　近代の幕開け	**●節の評価規準**					
	第２節 開国と幕府政治の終わり ５	○社会の変動や欧米諸国の接近に対する江戸幕府の対応・政治改革についてとらえ，幕府政治がしだいに行き詰まりをみせたことを理解する。 ○幕末の開国と，その政治的・社会的な影響について，欧米諸国のアジア進出との関わりから理解する。	欧米諸国のアジア進出を背景に，幕府が対外政策を転換し開国したことで，幕府への批判が高まり江戸幕府が滅亡したことを理解し，その知識を身に付けている。	開国するまでの経緯や，開国後に攘夷運動が高まり江戸幕府が滅亡に至るまでの過程について，様々な資料を活用し，読み取ったり図表にまとめたりしている。	欧米諸国のアジアへの進出や開国が，幕府や社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	幕府が対外政策を転換して開国したことに対する関心を高め，その政治的および社会的な影響について意欲的に追究しようとしている。
	●各単元の評価規準					
	⑥内と外の危機 1	○日本に外国船が接近するようになった背景を振り返り，こうした動きに対して，幕府が北方の調査や海防の強化，打払令を命じたことを理解する。 ○社会の変動のなかで内外に危機が生じたことを理解するとともに，天保の改革はこれらに対応できず，幕府政治が行き詰まったことに気づく。	外国船の接近と深まる財政難という内外の危機に直面した幕府は，天保の改革に取り組むが失敗に終わり，ますます危機を深めたことを理解している。	日本への外国船の接近の様子について，地図や年表をもとに調べている。また，天保の改革の目的や手段，結果についてまとめている。	外国船の接近や百姓一揆の多発など，国内外の危機が幕府や藩に与えた影響について，民衆の闘いや天保の改革，藩政改革などから多角的に考察している。	日本に外国船が接近したことに関心を高め，その背景やそれに対する国内の動きを意欲的に調べようとしている。
	⑦たった四はいで夜も眠れず 1	○幕府が対外政策を転換し，ペリーの来航により開国した経緯を，当時のアジア情勢と関わらせて理解する。 ○日米修好通商条約の締結後に日本が抱えた問題について，外国との関係や，幕府と大名との関係から考える。	欧米諸国のアジア進出を背景としたペリーの来航から，諸外国との不平等条約の締結までの動きについて理解している。	日米和親条約や日米修好通商条約で開かれた港について，地図をもとに調べ，条約の内容について資料から読み取っている。	日米修好通商条約の締結後に日本が抱えた問題について，外国との関係や，幕府と大名との関係から説明している。	開国が日本と欧米諸国との関係に及ぼした影響について関心を高め，開国に至るまでの経緯や外国との関係について意欲的に調べようとしている。
	⑧新たな政権を目ざして 1	○開国後，物価の上昇や外交に対する幕府への批判が高まったことや，幕府はこれを弾圧で抑え込もうとしたことを理解する。 ○攘夷運動の高まりが倒幕へと動き，薩長同盟が結ばれた理由について，長州藩・薩摩藩と欧米の勢力との関わりから考える。	開国後の経済や社会の混乱を背景に，尊王攘夷運動が高まり，薩長同盟が結ばれて倒幕への動きが起こったことを理解している。	開国が社会や幕府政治に与えた影響について，貿易による品不足と物価上昇，倒幕への動きが高まったことなどから読み取っている。	攘夷運動の高まりが倒幕へと動き，薩長同盟が結ばれた理由について，長州藩・薩摩藩と欧米の勢力との関わりなどから多角的に考察している。	開国が社会や幕府政治に与えた影響について関心を高め，意欲的に調べようとしている。

	⑨御政事売り切れ申し候 2	○社会不安が広がるなかで，民衆による一揆や打ちこわしなどの世直しの動きが高まり，幕府の権威を弱めたことを理解する。 ○徳川慶喜が大政奉還を行ったねらいと，倒幕勢力が王政復古を宣言して新政府をつくったねらいに気づく。	倒幕運動が広がり，民衆の「世直し」への期待が高まるなかで，幕府が大政奉還をして政権が朝廷に移ったことを理解している。	社会不安の広がりから江戸幕府滅亡までの過程について，資料を適切に選択して調べている。	江戸幕府滅亡の経緯について，民衆の力や薩摩藩・長州藩を中心とした倒幕運動などから多角的に指摘している。また，大政奉還と王政復古のそれぞれのねらいについて説明している。	世直しの一揆や「ええじゃないか」の動きに関心を高め，民衆がこのような騒ぎを起こした背景や原因について意欲的に調べようとしている。
第６章　近代の日本と世界	**●節の評価規準**					
	第１節 明治維新と立憲国家への歩み 7	○新政府による政治の改革や，富国強兵・殖産興業の政策，文明開化の動きについてとらえ，明治維新により近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解する。 ○自由民権運動や大日本帝国憲法の制定についてとらえ，立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解する。	明治維新により近代国家の基礎が整えられ，人々の生活が大きく変化したことや，自由民権運動により当時アジアで唯一の近代的な立憲国家となったことを理解し，その知識を身に付けている。	富国強兵の諸改革，殖産興業による近代産業の育成，文明開化の動き，立憲国家の成立に関する様々な資料を活用し，読み取ったり図表にまとめたりしている。	新政府による政治の改革のねらいや，明治維新による人々の生活の変化について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	明治維新の経緯のあらましや，人々の生活の大きな変化に対する関心を高め，立憲制の国家が成立し議会政治が始まる過程を意欲的に追究しようとしている。
	●各単元の評価規準					
	①万機公論に決すべし 1	○新政府が戊辰戦争の最中に五箇条の御誓文を発布したことに気づき，その意図や形式，内容について理解する。 ○版籍奉還・廃藩置県・四民平等の改革についてとらえ，新政府はどのような国家を目ざしたのかを考えるとともに，残された社会的差別からの解放を目ざす動きも起こったことに気づく。	新政府は，版籍奉還や廃藩置県によって将軍・大名の領主権を廃止し，中央集権体制を築いていったことを理解している。	明治維新に関わる資料をもとに，新政府の改革の内容や人々の対応，新政府のしくみについてまとめている。	新政府が目ざした国家について，五箇条の御誓文に示された新政府の政治方針や，版籍奉還・廃藩置県・四民平等の改革から多角的に指摘している。	新政府がそれまでの政治や社会のしくみを変革していったことに関心を高め，改革の内容を意欲的に調べようとしている。
	②人民に上下の別なき ③学問は身を立てるの財本 1	○学制・兵制・税制の改革についてとらえ，政府が富国強兵の政策による近代国家の建設を目ざしたことを理解する。 ○学制・徴兵令・地租改正に反対する動きが起こった理由について，人々の負担や生活に及ぼした影響から考える。	学制・兵制・税制によって，日本が近代国家を目ざしていたこと，それによる人々の負担や生活に及ぼした影響について理解している。	欧米列強に対抗できる国家を建設するための改革について，江戸時代との違いをまとめている。	徴兵制度や地租改正が社会に及ぼした影響について，政府のねらいや反対の動きが起こった理由，民衆の生活の変化などから多角的に説明している。	明治政府の改革に関心をもち，学制・兵制・税制について意欲的に調べようとしている。
	④ザン切り頭をたたいてみれば 1	○殖産興業の政策による産業・交通・通信の近代化や，生活・町並みの洋風化の様子を，江戸時代と比べて理解する。 ○政府により北海道の開拓が推進された一方で，先住民族であるアイヌの人たちの生活の場が奪われ，アイヌ民族に対する差別が続いたことに気づく。	殖産興業の政策による産業・交通・通信の近代化や，生活・町並みの洋風化の様子について理解している。また，北海道の開拓が進められるなかで，アイヌ民族に対する差別が続いたことに気づいている。	西洋にならった改革で，新たにできたり始まったりした物事を江戸時代と比較して表にまとめている。	殖産興業の政策について，産業・交通・通信の近代化や，生活・町並みの洋風化の様子などから多角的に考察している。	殖産興業の政策による社会や人々の生活への影響に関心をもち，意欲的に調べようとしている。
	⑤智識を世界に求めて 1	○政府が岩倉使節団を派遣した目的や成果について理解するとともに，朝鮮に対しては，武力を背景に日本に有利な条約を結んで開国させたことに気づく。 ○政府は，清との国交を開き，ロシアとの国境を画定させるとともに，琉球に対して日本への編入を断行していったことを理解する。	政府が岩倉使節団を派遣した目的や成果について理解するとともに，朝鮮に対しては，武力を背景に日本に有利な条約を結んで開国させたことに気づいている。	明治初期の日本の外交や領土画定の歩みを年表にまとめ，東アジアの様子を地図に表している。	征韓論をめぐる西郷隆盛と大久保利通の考え方の違いについて，対立した理由を士族の不満や欧米視察と関連させて説明している。	岩倉使節団の派遣に関心を高め，日本と欧米の関係や，日本と周辺諸国との関係について意欲的に調べようとしている。

	⑥民撰議院を開設せよ 1	○民主主義の思想の広まりを背景に，国会開設を目ざす自由民権運動が全国に広まり，様々な憲法案や政党がつくられたことを理解する。 ○自由民権運動が衰えていった理由について，政府による取り締まりや民権派による激化事件などとの関わりから考える。	民撰議院(国会)の必要性を主張した自由民権運動が，士族や有力な農民などにも急速に広がり，様々な憲法案や政党がつくられたことを理解している。	主な士族の反乱と，自由民権運動の広がり・主な激化事件を調べ，図表にまとめている。	立憲政治を目ざす政府と民権派の考え方の違いについて説明している。自由民権運動が衰えていった理由について，政府と民権派の動きと関連づけて指摘している。	自由民権運動に対する関心を高め，当時の様子や起こった事件について進んで調べ，人々の心情や状況をとらえようとしている。
第６章　近代の日本と世界	⑦憲法の条規により之を行う 2	○大日本帝国憲法の制定過程と内容の特色について理解し，日本が天皇を元首とする，当時アジアで唯一の立憲国家となったことに気づく。 ○憲法のもとで始められた政治の特色を，議会や選挙，「家」の制度などからとらえ，現在の政治のしくみとの共通点や違いについて考える。	日本が当時アジアで唯一の立憲国家となり，大日本帝国憲法では，天皇が統治者として強い権限をもつ一方，憲法のもとで選挙に基づく議会政治も始められたことを理解している。	大日本帝国憲法の特色を調べ，憲法下の国家のしくみについて図表にまとめている。	大日本帝国憲法下の政治について，議会や選挙，「家」の制度などの面から日本国憲法と対比して，その特色を指摘している。	内閣制度の確立や大日本帝国憲法の制定から，日本が近代国家の仲間入りをしたことに関心を高め，意欲的に調べようとしている。
	●節の評価規準					
	第２節 激動する東アジアと日清・日露戦争 7	○条約改正の歩みや日清・日露戦争についてとらえ，日本の国際的地位が向上したことを，大陸との関係と関わらせて理解する。	急速に近代化した我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを，条約改正や日清・日露戦争を通して理解し，その知識を身に付けている。	日清・日露戦争における日本の国際的地位が向上したことを，帝国主義により激動する東アジアの動きと関連させながら，様々な資料を活用し，読み取ったり図表にまとめたりしている。	日清・日露戦争などの対外的な動きが，国内や国際社会へ与えた影響について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	急速に近代化した我が国へ大きな影響を与えた戦争に対する関心を高め，条約改正から日本の国際的地位が向上するまでの経緯について，意欲的に追究しようとしている。
	●各単元の評価規準					
	⑧対等な条約を求めて 2	○19世紀の後半に，列強諸国が帝国主義の動きを強め，アジアに勢力を広げながら東アジアにも迫り始めたことを理解する。 ○条約改正の歩みをとらえるとともに，イギリスとの条約改正に成功した理由について，日本の近代化や東アジア情勢との関わりから考える。	19世紀後半に欧米の資本主義の国々は，強大な経済力を背景に帝国主義の時代に入ったこと，日本は近代的な諸制度を整えたことを背景に，条約改正の道が開け，国際的地位を高めたことを理解している。	欧米列強の植民地拡大の様子について，列強が世界をどのように分割支配していたのか地図にまとめている。	条約改正の経緯について，明治政府の政策や東アジア情勢の変化と関連づけて説明している。	欧米列強が帝国主義の動きを強める国際情勢のなかで，条約改正を進めていったことに関心をもち，その経緯を意欲的に調べようとしている。
	⑨朝鮮をめぐる戦い 1	○朝鮮をめぐる勢力争いが清との対立を生み，日清戦争を引き起こす要因となったことに気づく。 ○日清戦争と三国干渉をきっかけに，国内では，ロシアや中国・朝鮮に対する意識の変化がみられたことや，政党政治の基礎が築かれたことを理解する。	日清戦争と三国干渉をきっかけに，国内ではロシアや中国・朝鮮に対する意識の変化が見られたことや，政党政治の基礎が築かれたことを理解している。	東アジアの国際関係を描いた風刺画から，日本・清・朝鮮・ロシアの関係について読み取っている。	日清戦争の原因と結果，国内外への影響について，甲午農民戦争や下関条約，三国干渉などから多角的に指摘している。	日本・朝鮮・清の関係に関心を高め，日清戦争の原因と国内の変化について意欲的に調べようとしている。
	⑩「眠れる獅子」に迫る列強 1	○日清戦争後，欧米列強が清を分割・侵略していったことや，それに抵抗する中国民衆の動きが起こったことを理解する。 ○日本とイギリスが日英同盟を結んだそれぞれのねらいについて，ロシアの動きや東アジアの情勢との関わりから考える。	欧米列強の中国分割から日英同盟に至る経緯を，当時の国際社会や東アジアの情勢と関連づけて理解している。	日英同盟を結んだころの日本と，韓国・清・欧米列強との関係を，図に表している。	欧米列強が清に植民地を広げた理由や背景について，自分の考えを発表している。	日清戦争後の東アジアの動きに関心を高め，欧米列強による中国の分割支配や東アジアの情勢について意欲的に調べようとしている。
	⑪列強との戦い 2	○韓国や満州をめぐるロシアとの勢力争いから，日露戦争が起こったことを理解するとともに，開戦が強まるなかで非戦論が唱えられた理由について考える。 ○戦争の推移や講和についてとらえ，戦争が国民生活に多大な犠牲を強いた一方で，その勝利がアジア諸国などに大きな影響を与えたことを理解する。	韓国や満州をめぐるロシアとの勢力争いから，日英同盟を盾にロシアとの開戦に踏み切った経緯を理解し，戦争が国民生活に多大な犠牲を強いた一方で，その勝利がアジア諸国などに大きな影響を与えたことを理解している。	地図やグラフから，日露戦争の戦場や規模の大きさ，日本の領土の変化などについて，日清戦争と比較して読み取っている。	戦争の原因や結果，国民感情，内外への影響などについて多角的に考察し，日露戦争の歴史的な意義を説明している。	日露戦争に関心を高め，原因や国内・国際社会へ与えた影響について意欲的に調べようとしている。

第６章　近代の日本と世界	⑫変わりゆく東アジア 1	○日露戦争後，日本が韓国を併合し，同化政策などの植民地支配を進めたことにより，朝鮮の人々の主権が奪われていったことに気づく。 ○日本は，満鉄などを通じて満州にも勢力を広げていったことや，中国では，三民主義を唱えた孫文らによって辛亥革命が起こり，中華民国が成立したことを理解する。	日本は韓国を植民地とし，朝鮮の人々の主権を侵害したこと，植民地化の進む中国では，三民主義を掲げた辛亥革命によって中華民国が成立したが，国内の政治的対立が続いたことを理解している。	韓国併合と辛亥革命の前後で，東アジアの地図がどのように変わったか読み取っている。	孫文が唱えた三民主義から，どのような国づくりを目ざしたのか，アヘン戦争以後の中国の歩みを振り返って，自分の考えを発表している。	日露戦争後の東アジアの動きに関心をもち，韓国併合や辛亥革命などについて意欲的に調べようとしている。
	●節の評価規準					
	第３節 近代の産業と文化の発展 ３	○産業革命と国民生活の変化，学問・教育・科学・芸術の発展についてとらえ，日本で近代産業が発展し，近代文化が形成されたことを理解する。	殖産興業政策の下で進展した我が国の近代産業が，産業革命を経て発展したことや，それにともなう国民生活の変化について理解している。また，西洋文化の影響を受けた新しい近代文化が形成されたことを理解している。	グラフや地図から産業の発展を読み取ったり，近代文化の特色を様々な資料を活用し，図表にまとめたりしている。	産業革命が国民生活に与えた影響について，経済の変化と人々の生活の変化との関わりから多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	近代産業の発展による国民生活の変化や近代文化に対する関心を高め，意欲的に追究しようとしている。
	●各単元の評価規準					
	⑬近代産業を支えた糸と鉄 1	○日本では，19世紀の末に製糸・紡績などの軽工業を中心に産業革命が進み，資本主義が確立したことや，20世紀に入って重工業も発達したことを理解する。 ○工業化や交通機関の発達は，都市や農村の生活に大きな変化をもたらし，人々の生活範囲も広がったことに気づく。	日本の産業革命は，国家資本を中心として展開され，製糸・紡績などの軽工業から鉄鋼・造船などの重工業へと変化したことを理解している。	写真やグラフから，当時の工場の様子や貿易量の推移，地域社会や人々の生活の変化を読み取っている。	産業革命が都市や農村の生活にもたらした変化について，八幡製鉄所の設立や交通網の発達などから多角的に考察している。	日本の産業革命に対する関心を高め，軽工業に続き重工業が発達した過程について意欲的に調べようとしている。
	⑭工業化のかげで 1	○急速な工業化の一方で，厳しい労働条件の改善を求める労働運動や，社会主義運動が起こり，政府は治安警察法によりこれらを取り締まったことを理解する。 ○足尾鉱毒事件の原因や被害の様子，田中正造らの運動，政府の対策などをとらえ，深刻な公害問題となった理由について考える。	急速な工業化のなかで，劣悪な労働条件の改善を求めて労働運動が起こり，また，資本主義の矛盾に対して社会主義運動が起こったことを理解している。	産業革命により，どのような労働運動や社会問題が発生したのか，資料やグラフから読み取っている。	工業化のかげで起きた問題について，社会運動や足尾銅山鉱毒事件の公害問題などから多角的に考察している。	産業が急速に発展した一方で，様々な社会運動が起こったことに関心を高め，その原因や政府の対応を意欲的に調べようとしている。
	⑮西洋文化と伝統文化 1	○教育制度の整備により就学率が高まり，高等教育や女子教育も盛んになった一方で，教育勅語や国定教科書などを通じて教育の国家統制が強まっていったことに気づく。 ○明治時代には，西洋文化の影響を受けた新しい近代文化が形成され，世界で最先端の研究や発見も生まれたことを理解する。	明治時代には，西洋文化の影響を受けた新しい文学・美術が発展したことや，学校教育の普及や情報の広がりにともなって国民的文化が形成したことに気づいている。	西洋文化の影響を受けた明治時代の近代文化について，江戸時代の文化との違いを分野ごとにまとめている。	教育勅語や国定教科書を通じて，国家による教育の統制が強められた背景について考察している。	明治時代の文化に関心をもち，教育制度や新しい近代文化について意欲的に調べようとしている。